平和記念だより 81

2021年10月

◆編集･発行/高松市市民政策局人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/高松市松島町一丁目15番１号　たかまつミライエ５階
〒760-0068　TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

高松市戦争遺品展

令和３年７月１３日（火）から１９日（月）まで、瓦町ＦＬＡＧ２階コンコース（ことでん瓦町駅改札前）において、「第３１回高松市戦争遺品展」を開催しました。高松空襲の被害状況が分かる市街地図、焦土と化した市街地や戦時下の暮らしを写した写真パネルや遺品など７０点を展示しました。

今回、テーマ「遊び」のコーナーを設け、戦時中に子どもたちが遊んだトランプやかるた、おもちゃのピストルや木製のスケーター等を展示して紹介しました。栗林公園内にあった動物園プールで遊ぶ子どもたちの写真パネルを見ながら、当時の思い出を懐かしそうに話してくださった方がいらっしゃいました。また、高松空襲の遺品の前では、「神戸で２度、高松に帰ってきて１度、合計３度空襲を経験した。恐ろしい目にあった。」と、ご友人にご自分の空襲の経験を話されていた方がいらっしゃいました。

高松市戦争遺品展の様子

瓦町ＦＬＡＧ２階コンコースでの開催ということで、戦争遺品展の開催を知って来場された方だけでなく、瓦町駅やＦＬＡＧをご利用の方にも、多く立ち寄っていただきました。ご来場の皆様、ありがとうございました。

高松市戦争遺品展
来場者アンケートより

ご協力ありがとうございます！

この場所(瓦町駅前)で開催するようになって、以前よりも見る人が増えて年齢層も広がったように思う。

（50代女性）

高松空襲の写真を見たのは小学校のとき以来でした。日頃の生活では戦争について考えることが全くなく、今日遺品展を見ることができたのは今後の人生に大変意義深いことでした。平和について日頃から意識することが大切であると感じました。

（20代女性）

原爆写真展　～SDGs 未来に向かって平和と公正な社会を～

令和３年８月５日（木）から１１日（水）まで、市民交流プラザ IKÔDE 瓦町展示コーナーにおいて、高松市平和を願う市民団体協議会と共催で「原爆写真展　～SDGs 未来に向かって平和と公正な社会を～」を開催しました。原爆写真パネル２０点に加え、SDGs の１６番目の目標として掲げられている「平和と公正をすべての人に」に基づき、緊急事態下の国や地域で暮らしている子どもたちの現状を知り、戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識するための写真パネル等３０点を展示しました。ご来場の皆様からは、たくさんのご意見やご感想が寄せられました。

原爆写真展
～SDGs 未来に向かって平和と公正な社会を～
来場者アンケートより

ご協力ありがとうございます！

実際の写真や原爆を経験した人々の記録を見て、とても胸が痛みました。原爆投下時のありえないほどに高い温度、熱を帯びた爆風、黒い雨、負った傷は想像をはるかに超えるものだと思います。心に負った傷もとても深かっただろうなと感じました。家族を置いて逃げることの悲しみ、友達をなくすことの悲しみ、どんなに辛いでしょうか。同じことを二度と繰り返すことのないよう、次の世代にもしっかりと伝えていかなければならないと改めて感じました。私たちの世代は戦争、原爆を経験していません。だからこそ、もっと戦争について学び、深く知る必要があると思います。　（高校生）

子どもの夏休みの宿題の参考になればと思い、来場しました。今までに原爆や戦争については話を聞いたり学んだりしましたが、今回、娘と一緒に当時の写真を見たことで、子どもたちのためにも同じ過ちを犯してはいけないと痛感しました。原爆、終戦の日は、毎年、親子で平和について考える日にしようと思います。（40 代女性）

ＳＤＧｓに関する展示では、長谷部氏の貴重な難民キャンプ視察の様子を知ることができました。いつの時代になっても、誰かの幸せと健康を願う思いを絶やさず、そのために小さくても何か行動できる人間でいられるよう気持ちを新たにしました。　（50 代女性）

耳ヨリ

学校で使える実物資料

平和記念館では学校の授業・平和学習で使える実物資料の貸し出しを行っています。

貸出しセット内容　※は、レプリカ

焼夷弾・防空頭巾・ゲートル(布製)・水筒・モンペ
衣料切符※・家庭用菓子購入通帳※・充員召集令状※・罹災証明書※・防空必勝の誓※

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

10 月の上映 **「チョッちゃん物語」**（80 分）

日　時▶　開館日の土・日、午後２時上映開始

解　説▶　原作は黒柳朝さん(黒柳徹子さんの母)。昭和１６年、迫りくる戦争の影におびえながらも幸せに暮らしていた「チョッちゃん」一家。しかし、長男の病死、夫の召集、疎開先の災害など、悲しい出来事や苦難は続く。そのような中でも、家族のきずなを大切にして、明るくたくましく生き抜いた黒柳朝さんの自叙伝をもとに、「平和の大切さ」「生命の尊さ」を描いた長編アニメーション。

11 月の上映 **「父と暮らせば」**（99 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後２時上映開始

解　説▶　原爆が投下されてから３年後の広島。図書館に勤める美津江は、ある青年から好意を示されるものの、生き残ったことへの罪悪感から素直にその思いに応えることができない。原爆により亡くなった美津江の父、武造は幽霊となって現れ、娘のかたくなになった心を癒していく。井上ひさし原作、宮沢りえ主演による長編映画。広島原爆を背景に描く、心温まる父と娘の物語。

12 月の上映 **「Paper Cranes Story ~ケンタとマイコ~」**（27 分）

日　時▶　開館日の土・日、午後１時上映開始

解　説▶　命ある折鶴のケンタとマイコ、そして大勢の仲間たち。一羽、一羽の折鶴には、折った人の平和を願う強い気持ちが込められている。戦争や災害のない世の中を願う人々の思いを伝えるため、戦地や被災地へと飛び立っていく折り紙の活躍を描いたアニメーション。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▼今後の行事予定▲

※　新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。

2月

● **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**

期　日　令和４年２月２６日（土）～３月２１日（月・祝）

場　所　石の民俗資料館(牟礼町)

内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

● **平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭**

令和３年度の開催は中止となりました。

収蔵品紹介71

軍服（ぐんぷく）・軍帽（ぐんぼう）

寄贈者　　佐治　庸子 様

寄贈者の父親の遺品。軍服は、サイズから父親が着用していたものではないと思われる。しかし、父親は生前、「軍服はどこにしまったのかな。」としきりに尋ねるなど、気にかけていて大切に扱っていたらしい。軍服のタグの裏側に手書きで所有者らしい氏名が記されているが、寄贈者には心当たりがない。軍帽は陸軍用で、後ろのひもでサイズの調整ができるようになっている。

父親は 1938(昭和１３)年、高松高等商業学校(現・香川大学経済学部)入学、1941(昭和１６)年、神戸商業大学(現・神戸大学)に進学、同年９月には繰り上げ卒業、住友機械工業株式会社(新居浜市)に就職。そして、同年 11 月、西部第 36 部隊(善通寺町)に入営した。

平和記念館「最近の寄贈品」コーナーで展示中

戦時用語解説 63

軍事教練

【読み】ぐんじきょうれん

【分類】戦時下の教育

戦時色の強まる中、学校では軍事教育が盛んに進められた。国民学校(小学校)では、体錬科(武道や体操)の授業で木銃を担いで行進し、木刀や長刀の練習に取り組んだ。中学校以上になると隊列を組んでの行進や柔剣道、射撃などの訓練が行われ、軍事教練と呼ばれた。各学校には現役の将校が配属され指導にあたっていたが、１９４１(昭和１６)年からは、軍事教練は必修科目となり、本物の機関銃や刀を使って実戦さながらの演習が繰り広げられた。盛んに行われた軍隊への一日入営では、本物の大砲や戦車を使った説明を受け、多くの子どもたちが少年兵へのあこがれを持つようになった。

参考：「戦争とくらし百科」

早乙女勝元　監修　日本図書センター

編集メモ

新型コロナウイルスの感染状況を受けて、平和記念館では、様々な予定の変更を余儀なくされています。８月 19 日(木)に開催予定であった「教職員のための平和教育講演会」は中止となりました。また、夏休み中(８月)に平和映画上映会で上映予定であった「チョッちゃん物語」は、改めて 10 月の土・日に上映いたします。今後も感染状況により、平和記念館の開館や行事の開催について予定変更することがあります。ご了承ください。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）

休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

入 館 料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 82 号発行は、2022 年 1 月です。